

高齢者疑似体験・社会福祉協議会の方との交流会

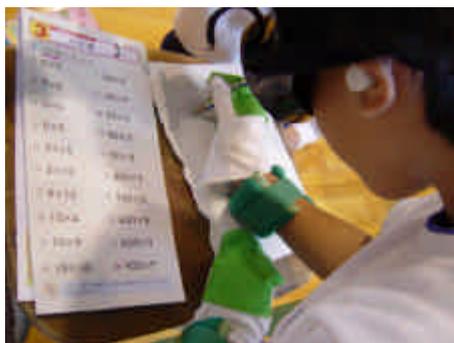
お年寄りとの触れ合い体験をもとに、ボランティア活動のよさについて学ぶ総合学習の続報です。今回は「お年寄り体験・社会福祉協議会の方との交流会」がありました。この学習は、1回目の「9月のあじさいの会・金魚の小物作り交流会」の後にみんなで決めた課題の一つです。お年寄りと交流するためにはお年寄りの体のことについてわかっておくといふと考えました。さん、さんが既に別の機会に体験済みです。社会福祉協議会からは、さん、さん、さんの3名の方が来てくださいました。さんからは、社会福祉協議会がやっていること ボランティア活動をしている団体について の二つのこととお話しいただきました。その後体験です。



赤木さんからお話をいただきました。「社会福祉協議会だよりの編集と発行」「ボランティア団体の活動のお手伝い」の二つの仕事についてお話しいただきました。お家で社協だよりをみなさんでご覧ください。

いよいよ高齢者疑似体験セットの装着です。3人組で行いました。体験者、援助者、観察者の役割です。まず、足首に1キログラムのおもりをそれぞれ付けます。マジックテープでしっかり巻き付けます。

手袋を付けた後、手首に500グラムのおもりを付けます。今回は、通常の装着具の半分を付けました。体が小さいという理由からです。膝や肘のサポーター(間接を曲がりにくくする)は付けませんでした。



両足、両手、目と耳に装着して、完成です。体験者と手助けをする人との二人組で活動します。(観察者はそばを付いていながら様子を見ます)14グループが一斉に行いました。3年生にしては、てきぱきと行動できました。

耳栓はお年寄りの聞こえと同じように高音域がカットされるもの、ゴーグルは白内障に近い見え方がするものです。手には拘束具をつけて動きにくくしています。1番目の課題は、計算ドリルを5問解くです。とってもやりにくそうでした。

2・3番目の課題は、「体育館を歩く」と「ステーション横の階段を上がったり下りたりする」です。よく見えないので階段につまずいてしまう子供もいました。10分程度なら何でもなくても一日中、1年中と考えると大変なことだと実感されます。